



とらいあんぐる



2022 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「本棚と育つ」

夢の中に、自分の家が出てくることがあります。多くの人に、経験のあることでしょう。

現在、住んでいる家ではなく、昔、自分が幼い頃に住んでいた家が出てくることも多く、いつも不思議に思います。

目がさめている時は、思い出すことさえないのに、あれはなぜなのでしょう？

もうとっくになくなってしまった家です。私とその家に住んでいたのは、大学生まででした。

思い返せば、今の家に住んでいる期間の方が長くなっています。

それなのに、夢の中の「私の家」は、たいてい、子ども時代の家です。

間取りも正確に、夢の中にあらわれます。そしてすっかり忘れていたはずの細かな部分まで、再現されています。本当に不思議です。

家にかぎらず、幼い頃、なじみ深かった景色や場所を夢に見るようになる、というのは、よくあることのようにです。

認めたくありませんが、それが「歳をとった」ということなのかもしれません。

夢の中の「私の家」、「私の部屋」は、幼い私が母と過ごした部屋です。

私は毎日、幼稚園をサボっていましたから、来る日も来る日も、ほぼ24時間、その部屋にいました。

私は、カーペットをしいた床で、ねころんだり遊んだりして、長い長い時間を過ごしました。

片方の壁にくっつけるように、母のベッドがありました。

母のベッドと反対側の壁は、本棚でした。本棚があった、のではなく、壁が本棚だったのです。

その部屋以外に、そういう作りの部屋を見たことがないのですが、その部屋は壁が一面、本棚になっていました。

はじからはじまで、そして床から天井まで、一面に棚が作りつけてあるのです。

棚板は縦横にはりめぐらされ、格子状になっていました。40マスくらいあったと思います。もしかしたら、もっとあったかもしれません。

奥行きもあり、大きな本も入ります。

普通サイズの本は、手前と奥、2列におさめることもできました。

幼い頃、私は一番下の段をもらっていました。私専用の棚です。何を入れても良いし、どんなふうに入れても良いのです。自由でした。

おもちゃを箱に入れて、箱ごと本棚に入れていました。

少し大きくなって、私の持ち物が増えると、下から二番目の段も、もらうことができました。

一気に使える棚が増えました。うれしくなって、そこにもおもちゃをつめました。



その時、私は気づきます。

大きくなって、もっと背が高くなったら、もっと上の段にも手が届くようになって、上の段ももらえるかもしれない！

それはとても楽しみなことでした。

はやく大きくなろうと思いました。

さらに大きくなると、おもちゃではなく、絵本を入れるようになっていました。上の方の棚をまねたのです。

上の方の棚は、両親の本がぎっしりつまっていました。もちろん、当時の私の手は届きません。見ているだけです。

パパやママの棚のように本をならべると、自分もおとなに近づいたような気がして、とてもうれしい気持ちになりました。

絵本の背表紙をきれいにならべて、満足します。

かっこよく見えるように、ならべかえて工夫したりしました。でも、数冊の絵本では、ならべかえても、あまり変わりばえがしません。

本を増やしたいなあと思うようになりました。

もっと本を増やして、かっこよくしたいなあ。

もっとかっこいい本をならべたいなあ。

ぶあつい本や、難しい字の本は、かっこいいなあ。

はやくかっこいい本を読めるようになりたいなあ。

はやく難しい本を読めるようになりたいなあ。

私の欲望は、どんどん育ちます。



かっこいい本がほしくて、父にせがんで一番上の棚にある大きな本をおろしてもらい、自分の棚に置いてみたこともあります。

その「六法全書」は、のちに私が上方の段の本をとる時の踏み台として活躍することになります。

壁一面の本棚は、私にとって「宇宙」でした。いつまで見ていても飽きません。

音楽関係の本は、母のものでした。電気工学に関する本は、父のものでした。

背表紙には、読めない文字がたくさんありました。

特に興味があるわけでもないのですが、毎日、目に入ってくるので、気になります。

「ねえ、なんて、読むの？」

「あれは、なんて読むの？」

1日に何度も何度も、母にききます。

教えてもらって、ひととおりの読み方が分かれると満足します。

それに飽きると、意味を知りたくな

ります。

「ねえ、どういう意味？」

タイトルによっては、内容を知りたくなります。

「ねえ、どういうごほんなの？」

私の興味は、どんどん育ちます。

少し思い返すだけで、あとからあとから本棚の思い出があふれてきます。

思えば私は、本棚と一緒に育ってきたのでした。

いいえ、少し違います。

本棚が私を育ててくれたのかもしれない。



本棚を見て、幼い私は大きくなろうと決意しました。もっと上の段をもらえるように！ もっと上の段に手が届くように！

絵本を好んで手にとるようになりました。パパやママの段みたいにした！ 絵本を、いっぱいそろえたい！

次は、もっと賢そうな本を読もうと思うようになりました。背表紙に難しい字が書いてある、カッコいい本がほしい！

両親の本の背表紙で、字を学びました。

内容に興味を持つようにもなりました。

背が伸びて、両親の本を手取るようになりました。

母の棚には、音楽心理学の本がたくさんありました。もちろん、読みました。

本棚の本は、すべて読みました。

あの本棚がなければ、もしかしたら私は心理学者になっていなかったのかもしれない。

便利な時代になり、ネットにつながれば、情報が簡単に手に入る時代になりました。

本が大好きだった私でさえ、近年、本を読む時間が減ってしまっていることを感じます。

あの壁一面の本棚に、もう一度会いたいと、時々、思います。

そんなふうにいるから、夢に出てくるのかもしれませんが。

見ているうちに、興味がわいて、いつしか手を伸ばすようになる。そういうことは、他のことでも、たくさんおこっているのではないかと思います。

身近な人と同じ職業についている人が世の中にたくさんいますが、同じ原理だと思います。

曲もそうかもしれません。

発表会の曲を決めた時、その曲は、曲集の中におさめられていることでしょう。

今、必要なのは、その1曲です。1曲のためだけに本を1冊、買うことは、も

しかしたらもったいなく感じられるかもしれません。

でも、今は1曲しか用がなくとも、その曲集がおうちにあれば、ペラペラとめくって、他のページを目にすることもあるでしょう。

「ふ～ん、こんな曲もあるんだ・・・」
その時は、特に興味ありません。
でも、その曲を聴く機会を得た時、「ああ、あの本の中のアレだ！」と気づくでしょう。

興味がわいて、「ちょっと弾いてみようかな・・・」と思うかもしれません。

弾いてみようと思った時、すぐに行動にうつすことができます。だって、すでに家に楽譜があるのですから！

子どもは案外、身のまわりにあるものに、育てられています。それは、今は役に立たないものだったり、はっきりと「ムダなもの」だったりします。

誤解をおそれずにいいますが、その時、必要なものだけに囲まれて生活している子どもは損をしていると思いま

す。

自分には関係ない何かを、毎日、見ている中に、成長の芽があります。

最初は見ているだけです。手は届きません。

見ているうちに興味がわき、手を伸ばそうと思うようになるかもしれません。

そして、手が届く日が来ます。

手を伸ばそうと思わなかったら、手にとることは永遠にないでしょう。

子どもの目の先に、「ムダなもの」がいっぱいあるといいなあと、私は思っています。
(江口 彩子)



◆「第16回ジュニア・コンサート」を開催しました

4月27日（水）に、大泉学園「ゆめりあホール」にて、「第16回ジュニア・コンサート」を開催しました。11人の生徒さんが、立派な演奏をしてくださいました。

ここ2年、新型コロナのせいで「ゆめりあホール」の使用がかなわず、今回は久しぶりに、予定通りの会場で、予定通りの開催を果たすことができました。

たくさんのお客さまにご来場いただきました。お客さまの数は、過去、最多であったと思います。

当日、用意していたプログラムが足りず、急きょ、ひと家族さま、1枚とさせていただきます。本当に申し訳ございませんでした。プログラムをご希望の方は、刷り増したものをお渡しできますので、ご請求ください。

たくさんのお客さまが、たくさんの拍手を送ってくださり、ご出演の生徒さんには、何よりのエールになったことでしょう。会場にいらしたすべての方に、心より御礼申し上げます。

また、先立つ「ジュニコン・オーディション」に果敢に挑戦して下さったすべての生徒さんにも、この場を借りて御礼申し上げます。



◆ 夏の発表会にむけて

今年の夏の発表会は、8月5日（金）、6日（土）、7日（日）、8日（月）の4日間です。会場は、「成増アクトホール」です。

コロナ禍での発表会は、これで3回目となります。昨年も、同じ「成増アクトホール」でコロナ対策をしながら、無事、開催いたしました。着々と経験が積みあがってきた実感があります。とはいえ、油断することなく、今年も安全な開催に向けて、準備を怠らないようにしたいと思っています。

幸い、「成増アクトホール」は、舞台も客席も広い、大きなホールです。密を避けた進行ができます。



生徒さんの中には、4月にピアノのレッスンをはじめたばかり、中には一音会に入会したばかり、という方もいらっしゃると思います。「まだ曲らしい曲は1曲も弾けないから無理だわ・・・」とお考えかもしれませんが、それは違います。

先生の伴奏で、すてきに仕上げることができます。おうちの方との連弾でご出演いただくこともできます。おうちの方と一緒に舞台上で演奏する経験は、おうちの方にとっても、すてきな思い出になることでしょう。レッスンの中で、おうちの方の

演奏のサポートもさせていただきますので、ぜひ先生にご相談ください。

演奏は人前で披露してこそ、です。大きな舞台にあがる経験は、他では得がたいものです。

0～3歳の生徒さんは、リトミックの発表で舞台上がっていただきます。すでにご家庭での練習用の動画をお配りしています。おうちでも動画を観て、お歌やふりつけを覚えてくださいね。

くわしくは、リトミックのレッスンの中でご案内させていただきます。

「発表会のお知らせ」は、6月4日（土）よりお配りする予定です。中に希望用紙がありますので、日程や部のご希望を記入し、ご提出ください。ご提出の〆切は、6月26日（日）です。

◆「ピアノ発表会」出欠希望用紙の提出にご協力ください

6月4日（土）より、「発表会のおしらせ」をお配りする予定です。

ピアノの担当の先生がお渡しします。まだピアノをおはじめになっていない生徒さんは、リトミックの担当の先生がお渡しします。

「発表会のおしらせ」の中に、「ピアノ発表会・出欠希望用紙」が入っていますので、ご記入ください。レッスンの際に、「ショパンはうす」受付もしくは担当の先生にご提出ください。本部にメール、FAXしていただくのもけっこうです。メールは、ichionkai.piano@gmail.com、FAX番号: 03-3957-8864。ご提出の〆切は、6月26日（日）です。

この用紙は、お手数ですが、ご参加になれない方にも提出していただきます。過去に、用紙をお出しになっていない生徒さんを不参加としていたところ、用紙を提出し忘れていただけだった、ということが多くありました。そういった事態を防ぐために、不参加の場合にも、念のため、その旨の意思表示をいただきたいと思って

います。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

一音会では、ピアノ発表会を、原則、全員参加と位置付けています。大きな舞台上、多くのお客さまの前で演奏する経験が、非常に重要であると考えているからです。

表現を作り上げる際、「お客さまがどう感じるか」「どう伝えるか」という視点は、欠かせません。お客さまを意識した演奏を心がけるのに、人前で演奏する経験は不可欠です。

また、緊張を乗り越えて、やり遂げ、大きな拍手をもらう経験は、ピアノを続ける上での大きなモチベーションにもなります(小さな部屋でピアノと向き合っているだけでは、ピアノの意義は理解しにくいものです)。

一音会の発表会は、1年に一度です。1年、欠席してしまいますと、まる2年、発表の機会がないことになってしまいます。ぜひ、欠かさずご参加ください。

出欠希望用紙には、参加希望日を書いていただくようになっています。4日間の開催としておりますのは、ご予約と重ならない日を選んでいただきたいと思います思います。

時間帯(部)につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうぞご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

お手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。



◆ 「リハーサル・トライ」をおこないます

一音会では、コロナ前、「ピアノ発表会」に向けての準備の一環として、「リハーサル・トライ」をおこなってきました。ですが、この2年は、感染拡大防止のため「リハーサル・トライ」をおこなうことを控えてきました。そのため、「リハーサル・トライ」をご存じでない方、忘れてしまった方も、大勢、いらっしゃることと思います。

今年は、久しぶりに「リハーサル・トライ」をおこないます。私どもも、久しぶりの実施に際し、新たな気持ちで臨みたいと思っています。

まずは、「リハーサル・トライ」について、ご説明させていただきます。「ピアノ発表会」当日は、時間の関係で、リハーサルの時間をご用意することができません。また、当日よりも、当日の少し前にリハーサルをおこなった方が「もっとこうした方が良かった」という、リハーサル時の反省を本番に反映させることができると、私どもは経験から確信しています。

そのためにおこなうのが、「リハーサル・トライ」です。「リハーサル・トライ」とは、文字通り、リハーサルです。あわせて、人前で演奏する経験を積む、グランドピアノで演奏してみる、普段のレッスン以外の先生に見てもらい、等といった目的も持っています。どれも、演奏にみがきをかけるために、大切なことばかりです。

くわしくは、「発表会のおしらせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。

イメージとしては、「ミニ発表会」です。ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、発表していただきます。

グループには、経験豊かな先生が進行役として立ち会います。発表会当日の流れや、ご注意いただきたいことも、ご説明します。もし演奏に改善点があった場合には、ピアノ担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて混乱させるこ

とはありませんので、ご安心ください。

レッスンの日程と重なって実施しますので、原則、ピアノ担当の先生は、立ち会うことがありません。もし、担当の先生が伴奏をする場合は、先生と都合をあわせて上で、日時をご指定ください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておく、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることです。

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」103か204のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申し込みください（発表会の出欠希望用紙とは別に、お申し込みいただく必要があります）。

お申し込み〆切は6月26日（日）です。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（03-5966-7711・担当：矢島、伊藤）。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。